

東京はすっかり秋の気配ですが、九州、四国地方ではまだ夏のような気温が続いているようです。こんな季節の変わり目は風邪にご注意！楽しい行楽の秋、食欲の秋、読書の秋をお過ごしください。今号のアムルトジャパンニュースレターも秋の夜長に楽しんでいただける記事やご案内が盛りだくさんです。

プロジェクトサイト：スリランカ

スタディーツアーを終えて

昨年度に引き続き本年も8月25日から9月1日まで（7泊8日）スリランカ津波被災地のゴール県を中心に訪問するスタディーツアーを実施しました。今回は、アムルトのプロジェクトサイトに加え、他のNGOのプロジェクトサイトを訪問し、被災者に偏らずスリランカの人々との交流を通して、今後どのような支援が必要とされているのかを参加者の皆様と一緒に考えるツアーとなりました。

海岸線から10kmと2kmの違い

ツアーではヒッカドゥワの津波被災者が居住する恒久住宅2カ所を訪問しました。2カ所の恒久住宅の大きな違いは、海岸線からの距離です。最初に訪問したラトガマ地区の住宅は海岸線から約10km、2カ所目のピヤディガマ地区にある恒久住宅は海岸線から2kmの距離に建てられています。漁業従事者にとって内陸部への移転による生活への影響は非常に大きく、恒久住宅への移転を希望しない人も多かったと聞きました。商売や漁業で生計を立ててきた恒久住宅居住者の話を伺い、海岸線から住宅までの距離（内陸への移転）が与えている影響を確認することができました。ラトガマ地区の居住者からは、交通の便も悪く漁に行けないことが多々あるため安定した収入が得られないという話が聞かれました。ピヤディガマ地区の居住者は以前の居住地からさほど離れていない場所であることもあり、津波前の仕事（漁師を含む）に従事しているため、花を植えたり、部屋を増設したり生活環境の改善を試みるなど経済的、精神的な余裕が見られました。10kmと2kmの差は8km。しかし、生活に見られる違いは数値では表せない程大きいと感じました。津波以前の仕事（特に漁業関連）を続けることが困難な状況にある人々に現状を打開するための更なるサポートが必要であると感じた訪問でした。



スリランカの障害者たち：自立へ向けて

ゴールのサボディニ障害者施設とハバラドゥワにある障害者のワークショップを訪問し、障害者が置かれている現状をヒヤリング調査しました。

サボディニ障害者施設は、ゴール市内の幹線道路沿いにあり、津波では40人の入所者が逃げ遅れ亡くなるという痛ましい被害を受けました。入所している人々は7歳から55歳までの親がいない知的障害者64人。政府からの援助は1人当たり毎月250ルピー（約270円）に相当する食材のみです。施設では縫製やレース編みの職業訓練を実施し、障害者が自立した生活が送れるよう指導を行っています。しかし、施設の運営は海外からの寄付に依存しているため、津波で被害を受けた建物も修復できず、職業訓練指導を行う十分なスペースが確保できない状態です。

ハバラドゥワの障害者ワークショップでは、盲目の青年サンジーバさんがリーダーとなり、村の20人の障害者が集まり、封筒、お線香、ろうそくを作り収入を得ようと努力しています。6月にスタートしたワークショップなので、まだまだ確実な収入を得るまでには至っていませんが、日々作業を続け封筒は1000枚を200ルピー、お線香は12箱を96ルピーでお店に卸しています。

サボディニ障害者施設のマネジャーもハバラドゥワのリーダーも障害を持っています。障害を持つ人が先頭に立ち、他の障害者と力を合わせ自立を目指す姿に感動を覚えながら、地域住民の障害者への理解、就学や職業訓練の促進が課題であると感じました。

アムルトジャパンは、今後の支援活動の取組みのひとつとして障害者自立支援を検討する予定です。



スリランカスタディーツアー報告会 in 成蹊大学

アムルトジャパンスリランカスタディーツアーに参加して下さった、成蹊大学の南斉真奈美さん、杉本絢野さんが所属する国際協力サークルM.I.X（ミックス；Minds for International Exchange）が行う活動の一環として、2007年10月5日（金）東京都武蔵野市にある成蹊大学校内にて、おふたりがツアーで体験されたことを発表する報告会が開かれました。

スリランカ津波被災者の現状や、ツアーで訪れた障害者を支援する施設での体験などと共に、支援のあり方について意見の発表などもあり大変有意義な報告会となりました。

● アムルトの活動を紹介する機会も頂き、どうもありがとうございました。



プロジェクトサイト：ニジュール

2007年9月からアムルトジャパンが行うニジュール支援事業がスタートしました

今年の9月から、アムルトジャパンの支援するプロジェクトとして、女性を対象とした野菜栽培と栄養改善・所得向上支援プログラムが始まりました。現地事務所が Bouza 県内数か村で進めている、Seculité Alimentaire（食糧確保支援）のための事業の一部を担う形になります。

栄養失調を減らすにはまず、食糧の確保が先決です。ここでは主食のミレット、副食の野菜や肉とも十分ではありません。

これまで、22ヶ所 59ヶ村で栄養失調児への食糧配給を行いました。不足している主食の生産向上を支援するためには、広大な面積をカバーしなければならず、肥料や堆肥の確保をどうするかという問題があります。また、結果が天候に左右されやすいことなど、NGOにとっては費用もリスクも高いものになります。

そこで、主食を作らない乾季に、地下水を使って比較的容易に栽培できるトマト、レタス、キャベツ、タマネギ、ジャガイモなどの栽培を奨励しています。ジャガイモは主食同様炭水化物を補給できますし、タマネギなどは換金性も高いので、それで所得を上げ、必要な時に主食を購入することができます。女性の活動の幅を広げ、社会的地位の向上にも役立ちます。

ただ、野菜栽培は水が頼りなので、地下水脈がなく雨季の主食栽培しかできない村はどうするのか、といった課題もあります。このような村こそ支援したいと願うアムルトニジュールスタッフですが、そうしたジレンマと戦いつつ、野菜栽培支援の代わりにコミュニティでの保健衛生改善の教育活動を展開するなど、可能な範囲での支援の方法を模索しているところです。



御礼！

グローバルフェスタ JAPAN 2007 に出展しました

2007年10月6日（土）、7日（日）、日比谷公園で開催されたグローバルフェスタ JAPAN 2007に出展しました。

秋晴れの2日間、アムルトジャパンプースへ多くの方が足を運んでくださいました。ブース内では活動の紹介と共に、アムルトジャパンお馴染みのスリランカ被災者製作コイアマットやケニアビーズ Kazuri の販売も行い、盛況のうちに終了することが出来ました。2日間で30,537円のご寄付・物販売上を頂き、事務局一同、ご来場の皆様、そして当日お手伝いいただいたボランティアの方々のご協力に心より感謝いたします。

この収益はアムルトジャパン支援事業運営のために大切に使用させていただきます。



アムルトジャパン イベントのお知らせ

アムルトジャパンでは、これから年末にかけて活動報告会や第3回目となるアフリカンビーズワークショップの実施を予定しています。また東京都杉並区で毎年行われている“うえるフェスタ 2007”に今年も出展します。皆様のご来場、ご参加をお待ちしています！

詳細は当団体ウェブサイトでお知らせいたします。

11月28日（水）ニジュール事業・南スーダンボランティア活動報告会
会場：渋谷区 環境パートナーシップオフィス エポ会議室 18時半より（予定）

12月2日（日）うえるフェスタ 2007 会場：杉並区高円寺 セシオン杉並

12月12日（水）第3回アフリカンビーズワークショップ
会場：千代田区大手町 大手町ビル 19時より（予定）

新しい支援方法のご紹介

アムルトオリジナル壁紙を Get して、活動に支援を！

アムルトジャパンは、Yahoo! JAPAN のボランティアサイトで壁紙購入によるインターネット募金を開始しました。

1口500円からの募金で、アムルトジャパン オリジナル壁紙がダウンロードできます。壁紙は、スリランカとニジュールの2カ国、風景など各4種類です。

壁紙を購入いただいた金額は、アムルトジャパンへの寄付として、スリランカの働く女性たちの自立支援およびニジュールの栄養失調児支援プロジェクトに使われます。

ボランティア募集！

下記の作業をお手伝いして下さるボランティアスタッフを募集します。

- アムルトの活動を基にした小中学生向け国際理解教育開発
 - 事務局内の事務作業
 - 経理の経験がある方で事務局の経理のサポート
 - パンフレットなどのデザインのアドバイスまたは製作
- ご連絡は、info@amurt.or.jp または 03-3338-3551 までお願いいたします。

皆様のご協力をお願いいたします！

